

商学部主催学術講演会

産業研究所協賛

演 題：アジアの企業経営の特徴と課題—格付けの視点も踏まえて—

講 師：平賀 富一（ひらが とみかず）氏

（株）日本格付研究所 国際格付部長 兼 チーフアナリスト

日 時：2008年6月3日（火） 4限（15：10～）

会 場：B号館 203号教室

【講師紹介】

1979年東京大学経済学部卒業後、東京海上日動火災保険へ入社。外務省を経て、2001年（財）国際金融情報センターのアジア大洋州部長、2005年より日本格付研究所国際格付部チーフアナリスト、2008年より同部長を兼任。海外の諸国、公社、国際開発金融機関の格付け業務を担当。2001年～2003年関税・外為審議会委員を兼務。筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士課程単位取得退学。ハーバード・ビジネス・スクール「ゼネラル・マネージャー・プログラム」修了。国際ビジネス研究学会などに所属。主要論文は「アジア主要国のコーポレート・ガバナンス」日本格付研究所『JCR格付』2007年11月、等。

【講演要旨】

アジア諸国の経済発展を担うべく、外資系企業のみならず、地場の有力企業が存在感を増している。アジアの企業経営の特徴として、財閥・華人ファミリー経営、旺盛な企業家精神、意思決定の迅速さなどが挙げられる。一方、課題として、所有と経営の未分離やコーポレート・ガバナンスの脆弱さが指摘されやすい。しかしながら、1997年～98年のアジア通貨・金融危機を一大契機として、多くの国で企業の経営改革が断行され、経営体質は急変化を遂げている。

本講演では、格付けという職務を通して知り得た韓国企業やインド企業の事例などを紹介し、格付けの概念・手法に言及しながら、アジア企業の実態と方向性を明らかにしていく。

本講演を通して、欧米企業に比べて注目を集めにくかったアジア企業を分析することの重要性が理解されよう。

商学部主催学術講演会

産業研究所協賛

演 題：国際ビジネスにおけるリスクマネジメント
～ 実務の視点からビジネスリスク軽減を考える ～

講 師：井上 泰伸 (いのうえ やすのぶ) 氏
三井住友銀行 外国業務部 推進役

日 時：2008年6月12日 (木) 4限 (15:10～)

会 場：B号館 304号教室

【講師紹介】

1981年立教大学経済学部卒業後、三井銀行（現・三井住友銀行）入行。赤坂通支店および丸の内支店外国課長を経て、2002年より外国業務部推進役。企業の海外進出に関するファイナンス支援、貿易・投資・為替業務、およびリスク対策に係る支援や相談業務に携わっている。現在は、外国業務推進に加え、同行主催「貿易実務セミナー」の講師も務める。

著書：(共著)『Q&A 貿易実務トラブル解決マニュアル』日本経済新聞、2006年

【講演要旨】

国際ビジネスの形態が多様化、高度化している。企業にとっては、国際ビジネスにおけるリスクの認識とリスクレベルの軽減を通じて、安全度の高い国際商取引を行うことは、今後のグローバルな企業活動を円滑化し活発化する上で重要課題である。

本講演では、国際ビジネスにまつわる信用リスク(与信リスク)、カントリーリスク、貿易決済リスク、為替リスクなどについて、実務の視点から取引リスクの軽減を考え、その予防と対策について事例を用いて解説する。また、最近の国際金融情勢に関し、主要通貨に関わる為替の動向についても触れる予定である。